

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No. -（事務局用）	自治体提示の地域課題名 共創による「ひとが輝き 交流広がる わたしたちの宇部」実現	自治体名 山口県宇部市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	宇部市の魅力を全国へ発信！うべ未来放送局		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 （公開）	UBE 姉妹		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 （公開）	2名		
代表者 （公開）	西村花実		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 **確認後 OK なら右に○印を記入⇒○**

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！を**ごく短く以下**に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

学生が宇部市取材し、発信することで学生自身が宇部市の魅力を発見する

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

提案するアイデア概要：【宇部市に学生が主体の配信放送局を開局する】

☆「何を」するアイデアか

宇部市の学校に通学する学生が宇部市のローカル情報を発信する放送局を作り、学生が自分で配信する内容を考え発信することで今まで知らなかった宇部市の魅力を発見し将来宇部市に住み続けたいと思う人を増やす。

☆主な2つの活動内容

①宇部市の学校に通う学生《小・中学生、高校生、大学生（高専・専門・院生含む）》が土曜または日曜のお昼に音声のみの生配信を実施する。

➡ラジオ放送のような形で音声のみの発信を独自のwebサイトから配信する（アーカイブ配信は配信後サブスクリプション登録者のみに配信する）

②またウェブサイトではブログのような形で学生リポーターが紹介したい場所やイベント、「学生×○○」といった対談、配信後記などのレポート記事を配信

☆「どのように」アイデアを運営するか

・学生リポーターは一年ごとにメンバーを編成する（1年ごとの募集）

[メンバー編成：小学校中学年以上3名、中学生5名、高校生10名、大学生（高専・専門・院生等含む）5名]

・配信放送局は旧山口井筒屋宇部店跡地に建設する「常盤通りにぎわい交流拠点施設」内にテナントを借り、週1回公開生配信を実施する

●活動内容①：週に一回の音声のみの生配信（1時間）【ラジオ感覚で宇部市の様々なローカル情報、学生×△△の対談などを発信】

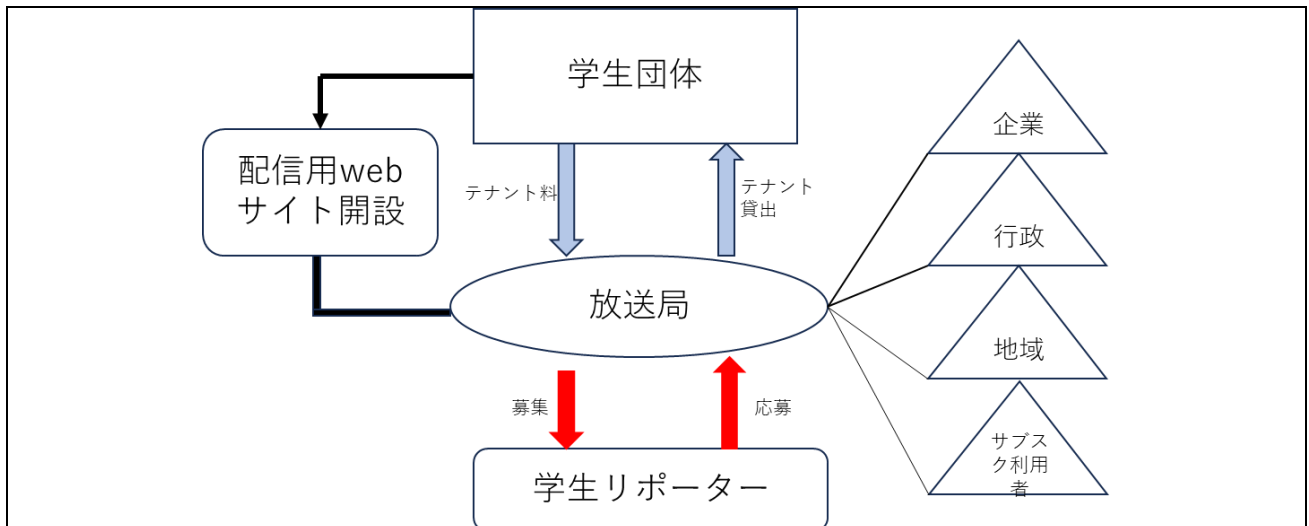
➡配信後は1か月間アーカイブ配信を実施（サブスクで登録している人のみが聴取することができる）

●活動内容②：配信後記で生配信した内容や紹介した内容に則したLINKを掲載、ブログのような形で学生が紹介したい場所やイベントの情報、対談内容などのレポート記事を配信

☆運営方法【産官学民が連携する運営体制】

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）



☆社会的効果・影響

【企業】「宇部学生サポーター」として放送局の後援企業となり出資をする。

➡学生リポーターがサポーター企業を訪問またはスタジオに呼び企業の取組や意見交換の場を提供する（レポート記事を配信する）

【行政】市政に関する情報提供をする

➡学生の言葉で発信をすることで多くの人が宇部市に興味を持つだけでなく若者が今宇部市に対してどんなことを考えているのかを情報収集することができる

【地域】地域のイベントや施設などの情報提供をする、（意見交換やイベントの運営などを実施することで）地元の学生と交流が広がる

➡その地域に学生が行ってみようと思う、その地域の知らなかったことを学生自身が発見することができる

【サブスク利用者】

・生配信で聞けなかった場合にアーカイブ配信を利用することができ、1か月間何度も聞くことができる

・宇部市の学校に通う学生の「今」を知ることができる

・放送局継続の支援にもつながる

【学生リポーター】

・自分で放送内容を考え取材するため、宇部市の様々な場所に訪れる

・他校、他学年の学生同士で交流を深めることで想いの共有ができる

・語彙力・発信力がUPする

➡リポーターだけではなく他の学生が配信を聞いたりレポート記事を読んだりすることで宇部の魅力を発見することができる

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

【アイデアを考えた背景】

山口県宇部市で生まれ育ったが中学生までは宇部を出て都会で暮らしたいと漠然と考えていた。しかし高校生の時に様々な地域活動に参加する中で地元地域の温かさに触れ、宇部市は学生が何かチャレンジすることを応援してくれる町であることを知った。そして山口県内の大学へ進学後宇部市のコミュニティー放送局「FM きらら」でパーソナリティーとして宇部市の情報発信に携わる中で、生まれ育った宇部市のことを何も知らなかったことに気づいた。また自分から宇部市に興味を持ってラジオで話す内容を調べたり、現地を訪問したりすることで宇部市にずっと居住していながらも知らなかった文化や行きたいと思うイベントや場所を知り、その情報を自分の言葉で発信することで、昔は宇部市に興味がなく、ただ暮らして将来は別の場所で生活しようと考えていたが今は宇部市に住み続けたいと考えている。

宇部市の「令和 4 年度 10 月の人口オープンデータ」を見てみると、25-29 歳の人口がその前後の世代よりも約 1000 人の差があることが分かる。（15-24 歳、30-39 歳の人口が 7000 人～8000 人であることに対して宇部市の 25-29 歳の人口は 6000 人）

【https://www.city.ube.yamaguchi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/018/220/jinko_opendate.xlsx】

このデータから宇部市で学んだ学生は学校を卒業後宇部市外へ流出してしまっているのではないかと推測することができる。それを示す根拠として「令和 2 年度第五次宇部市総合計画アンケート調査報告書」の 15 頁に今後も宇部市に住み続けたいかという質問で、特に 10 代が「住み続けたくない」と回答しており、若い世代では「住み続けたくない」というネガティブな回答が目立った。

【https://www.city.ube.yamaguchi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/524/anketokekka.pdf】

この結果の原因として「**若者の宇部市を知る機会の少なさ**」を挙げる。

そこで私たちは若者が宇部市に住み続けたい、将来的には宇部市に帰ってきたいと思う為には学生時代（子ども時代）に宇部市に興味を持ったり宇部市の中で大好きな場所を広げたりすることが大切であると考える。

➡その手段として…

宇部市で学生リポーターを募集し、学生目線で宇部市を取材し自分の言葉で発信をすることで知らなかった宇部市の若者独自の視点での魅力を自ら発見することができる施設「学生主体の配信放送局」を開局するアイデアを挙げる。

学生自らが「**発見する・調べる**」ことが学校で宇部市の歴史や文化などを勉強するよりも頭に入りやすいだけでなく、楽しみながら宇部市で働く人、宇部市内の建造物、宇部市で実施しているイベントなどを興味を持って調べ、公衆に発信をすることで**宇部のことを知らずに市外へ流出する若者を減らすことができるのではないかと**考える。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

だからこそ、宇部市には学生リポーターが必要であると考えます。学生リポーターには新規性があり、新たな試みであると言える。ゆえに話題性もうまれ、宇部市に賑わうだけでなく産官学民が連携することで「ひとが輝き 交流広がる わたしたちの宇部」の実現に大きく貢献すると考える。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

①実現する主体

学生団体（同じ課題意識を持った大学生などで構成）

②実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な資金調達方法

☆実現に必要な資源

●ヒト

- ・学生放送局を運営する共通の課題意識を持った学生を集める
- ・課題に共感し、支援してくれる人たち⇒全国規模のクラウドファンディング、地元企業の後援

●モノ

- ・放送局を開局するテナント
- ・生配信に利用する機材（マイクなどの音響機材）

●カネ

- ・放送局を開局するための初期費用（テナント料金、配信用機材の購入費、配信ウェブサイトの開設費用）

☆資金調達方法

（初期費用）

全国規模でクラウドファンディング、地元企業に出資のお願いをし、開局費用を捻出する

（継続費用）⇒加盟企業からの出資、サブスク登録料で賄う

【企業】

「学部学生サポーター」として放送局の後援企業となり出資をする。（サポーターは1年更新）（加盟料金：2万円/1年）

出資をすることで学生リポーターがサポーター企業を訪問またはスタジオに呼び企業の取組や意見交換の場を提供する（レポート記事を配信する）ことで企業のイメージアップなどにつながる。

【サブスクリプション登録者】

- ・生配信終了後1か月間アーカイブ音声を聞くことができるサービスを提供

- ・生配信で聞けなかった場合にアーカイブ配信を利用することができ、1か月間何度も聞くことができる
- ・宇部市の学校に通う学生の「今」を知ることができる
- ・放送局継続の支援にもつながる

（料金案）

一般：1,000円/月、10,000円/年 〈学生：500円/月、5,000円/年〉

③実現にいたる時間軸を含めたプロセス

①放送局を運営する学生団体の設立

↓

②開局にかかる費用を出資してもらうために全国規模のクラウドファンディング、地元企業参加のお願い

↓

③宇部学生サポーター（後援企業）の募集、学生リポーターの募集

↓

④旧山口井筒屋宇部店跡地に建設する「常盤通りにぎわい交流拠点施設」内に配信放送局テナントを借りる契約を結ぶ

↓

⑤学生リポーター決定後、ワークショップ（研修）を数回実施

↓

⑥学生が主体の配信放送局の運営開始

【運営資金調達】

- ・宇部学生サポーター企業（後援企業）
- ・サブスクリプション登録者

【情報提供】

- ・行政（宇部市）
- ・地域

☆ 学生主体の配信放送局を運営することで ☆

・学生自身が宇部市の様々な場所を訪問し取材をしてみとめることで宇部市内の魅力発見ができる。

⇒「宇部市に住み続けたい」「将来的には宇部市に帰りたい」につなげることができる。

宇部市は県内でも学生が多い街だが、若い世代が宇部市の好きなどところを見つけられず市外へ流出してしまうことはもったいないため、若い世代に宇部の現状や未来について興味を持ってもらうことは重要である。

また放送局を開局することで若者と地域社会（企業、行政、地域）のコミュニティーが広がり、若者が地域に参加しやすくなることも予測できる。

このことから、

共創による「ひとが輝き 交流広がる わたしたちの宇部」実現に学生が主体の配信放送局は大いに貢献すると考える。